

広域的な取り組みによる青少年育成 ～啓発活動、高校生との意見交流会～

▶「子ども・若者育成支援強調月間」で啓発活動を行う中京高校チアリーダー部



近年、東濃西部3市の圏域内では、都市の基盤整備が進み、団地の開発はもとより大型モールや研究施設の拠点進出など、その発展はめざましいものがあります。これに伴って、日常の生活圏は驚くほど拡大し、中高生を中心とする若者の行動範囲も、例外ではありません。

こうした環境の変化から、一昨年の春から夏にかけ、JR多治見駅自由通路では、各地から集まってくる高校生や有職・無職の若者による不良行為が目立つようになりました。この問題の解消には、関係機関の連携によって当面の解決は見られたものの、場所が沿線の各駅に移動し拡大するという、別の問題を生み出しています。

こうした現状からも、指導活動のすべてを、それぞれの地区単位で取り組むという、これまでの手法から、3地区が連携し一貫した方法で指導にあたることが求められています。

また、ごく普通の子ども・若者を取り巻く状況にも変化がみられます。

携帯の普及でブログや掲示板での誹謗中傷など、いじめの潜在化が進んでいます。一方、学校から塾への直行、家にこもってのゲーム遊び、さらには少子化現象の加速で、何よりも大切にしたい彼等との関わり・交わりの機会が少なくなっています。

こうしたことを背景に当センターでは、3地区指導部役員会議を定期的に開催し、各地区の情報を持ち寄り、広域的な視点での問題意識を共有することに努めてきました。また、携帯メールによる情報発信システムを立ち上げ、指導員がリアルタイムに必要な情報を把握できるような条件整備にも取り組んでいます。

一方、子どもや若者との関わり・交わりを深める活動としては、従来の決められた時間帯・巡回コースでの街頭指導から、小・中学校の下校時における校門前での「声かけ」啓発活動という試みも始めました。



▲3地区合同研修会

また、全国規模での取り組みである「子ども・若者育成支援強調月間」にあわせ、11月27日に多治見駅前でも市民を対象にした啓発活動を展開しました。ここでは、圏域内の中高生約50人の参加が得られ、若者の積極的な社会参加をアピールすることができました。

8月28日にセラトピア土岐で開かれた3地区合同研修会では、「若者との接し方・心への迫り方」をテーマに指導員と高校生との意見交流会を行いました。この会でも、土岐市内を主に5つの高校から約45人が参加し、相互の理解を深めることができました。